



はじめのいっぽ 令和3年度 2月号

令和4年1月31日
認定こども園
東野田ちどり保育園
東野田ちどりキッズ・庁舎内
江川 永里子

一年中で一番寒いと言われている大寒～節分迄の期間です。寒さに加えて、連日過去最多を記録し続けている新型コロナウイルス オミクロン株感染者数に恐さを痛感しています。

“今”出来る事に集中しながらの二年間!!生活の見直しの中で大切な物を確かめてきました。マスクを必ず毎日つける生活が当たり前となりました。楽しくお喋りしながらの給食・合唱・鍵盤ハーモニカなど出来ずに二年間!!

コロナ禍だったから出来た事は、少人数の書き初め・学年ごとのお誕生会・青空給食・何とか行く事が出来た京都市動物園など創意工夫の中で進んで来ました。年長組(ゆめ組)さんとの時間は、残り2ヵ月となりました。オミクロン株のピークが過ぎたら一緒にしたい事が沢山あります。

やるべき事を丁寧に実行しながら「春」の訪れを待ちたいと思います。

チューリップの芽



～アドラーより～

子どもの課題を共同の課題にする(1)

子どもの課題は、本来は子どもが自分の力で解決しなければならないものですし、親が口を出したり手伝ったりしてはいけなものです。しかし、子どもの課題を親子の<共同の課題>にして、親が手伝うことができる場合が3つあります。この章では、そのうち2つを学んで、もうひとつの場合は第5章で学びます。

1. 子どもから親に頼んできたとき

子どもの課題は、原則としては子ども自身に解決してもらうことが望ましいのです。もし自力でうまく解決できれば、子どもは「私は能力がある」と感じるでしょう。かわりに親が解決してしまえば、子どもは「私は能力がない」と感じてしまうかもしれません。しかし、子どもが自分の力だけで課題を解決できない場合もあります。そのような場合、もし子どもがはっきりと言葉で「手伝ってよ」と頼んできれば、親は手伝ってあげることができます。たとえば、「学校の宿題がわからない」というのは、その結末が子どもの身にだけふりかかりますから、子どもの課題です。しかし、子どもが「宿題がわからない。手伝って」と相談してきたら、子どもの話をよく聴いた上で、お手伝いしてあげることができます。

2. 言葉ではっきり頼まれてから手伝う

子どもは自分の課題を解決できないのだが、言葉で頼まないで、ただ手伝ってほしいようなそぶりをするだけだったりするときには、言葉ではっきりと頼んでくれるまで、手伝わない方がいいと思います。

場合によっては、「なにかお手伝いできることはありますか?」と尋ねてみるのもいいでしょう。そうして、子どもが「手伝って」と言えば、手伝ってあげますし、なにも言わないか、あるいは「手伝わなくてもいい」と言えば、子どもにまかせます。

3. 引き受けることも断わることもできる

子どもが頼んできたからといって、絶対に引き受けなければならないものではありません。場合によっては、断わることもできます。また、部分的には引き受けて、部分的には断わるというようなこともできます。引き受けるとしても、どの程度手伝うのか、どういうことは手伝わないのかを、事前によく話し合っておきます。